白馬五竜スキー場～小遠見山(2007m)～天狗岳(1940m)～天狗の鼻(1926,7m)～1682m 地点～白馬五竜スキー場

平成２２年４月４日（日）

メンバー：AT、IO、KO (記)
天候：晴れ
コースタイム：テレキャビン乗り場 8:20～スキー場 Top (8:50～9:00) →小遠見山 (10:40～10:55) →天狗岳を巻く 11:30～天狗の鼻 1926.7m 三角点 (12:20～12:25) ～ナイフリッジ通過 (12:50～13:00) ～1682m 高点 (13:25～13:50) ～犬川に架かる橋 (14:55～15:00) ～駐車場 15:30

概　要。今日はいよいよ小遠見山から天狗岳を経て南に伸びる黒沢尾根をトレースする日である。最初は、さのさかスキー場に降る予定であったが、昨日、さのさかスキー場に降っているので、同じコースを取るのは面白くないので、1682m 高点から北東に白馬五竜スキー場に伸びている尾根をトレースすることにした。

朝 8 時から始まるリフト券の発券を待っていたが、テレキャビンの乗車券は、乗り場で購入しなければならないとのことであった。案内がなく不親切だと思ったが、登山客相手ではないので仕方が無い。ゴンドラからさらにリフトを１本乗り次いでゲレンデトップに到着。ここでシールを装着。I.O さんはいつものスノーシューとミニスキーのスタイルである。

コースは地蔵の頭に登らず、左手に巻いて小遠見山に続く尾根に取り付いた。斜面は昨日の新雪に覆われ、天気も快晴、今日は素晴らしいツアーになることを予感させた。気分はウキウキわくわくである。途中の急峻な箇所はクトーを使って慎重に登り、小遠見山まで残り 35 分の標識を過ぎ、小遠見山の山頂に立った。

テレキャビン乗り場

地蔵の頭

小遠見山への最初の登り

小遠見山が見えてくる

急峻なやせ尾根の箇所もある

小遠見山まで 35 分の標識

前方に黒沢尾根を見る

小遠見山山頂にて

山頂から黒沢尾根を望む

山頂からは 360 度の大展望。鹿島槍北壁も明瞭に展望できた。32 年前に登った北壁中央ルンゼを登攀したときのことが思い出され、しばし感慨にふけった。
遠見尾根に続く五竜岳も素晴らしい。しばらく忘れていた大感動の光景に圧倒された。
言葉にならない景観であった。

鹿島槍ケ岳

五竜岳

これから向かう天狗岳方面を目視すると、傾斜はきついが鞍部までの滑降を楽しめそうである。頂上で出合った 3 人連れの外国人パーティはシールを着けたまま滑り降りて行ったが、我々はシールを外して降ることにした。外国人パーティの一人に今日はどこまで行くのかと尋ねたところ、返事は、I don’t know. Anywhere go down. と言われてしまった。結局、彼らは天狗岳から北東に白馬五竜スキー場に伸びる尾根を降って行ったようだ。天狗岳から先にはやって来なかった。
最低鞍部から天狗岳を見るとかなり急峻な斜面になっている。頂上手前の登りを先の外国人パーティは板を脱いでツボ足で登っていたが、我々はシールでこなした。天狗岳は頂上を踏まず、南側を巻いて通過することができた。

小遠見山からの滑降

天狗岳を右から巻く

天狗の鼻への登り

この先にはいよいよ本日のコースの難所が待っている。天狗の鼻のピーク直下は、下調べした記録にはシールで登ることは困難であると書かれていた。4 月に入り雪も少なくなり斜面はクラストしている。ここは慎重を期して登山用アイゼンを使用することにした。さらに、天狗の鼻から先のナイフリッジも鋭角に切れ落ちていたので、登山用アイゼンの使用は最良の選択であった。
天狗の鼻には古いボルトの残る木の標柱があり、その先に三角点があった。無事にナイフリッジをこなし、今日の難所を通過したときは、気持ちも安らぎ緊張感から解き放たれた。

ナイフリッジの通過

ナイフリッジの通過

木の標柱と三角点

ナイフリッジ通過後の急斜面

さぁ、ここからは再び滑降が楽しめる。ここで再びスキーを装着し、ところどころ出てくるナイフリッジの箇所も慎重に滑り降り、軽い登りもシールを使うことなく消化し、1682m 高点に到着した。ここから北東に延びる尾根は明瞭である。ここで大休止を取ることにした。南西側の眼下には青木湖が見え、昨日トレースした尾根の先にある長見山もすぐそこに見えていた。

ナイフリッジ通過後の滑降

1682m高点に向かう

青木湖

1682m高点にて　ＡＴさん

ＫＯさん

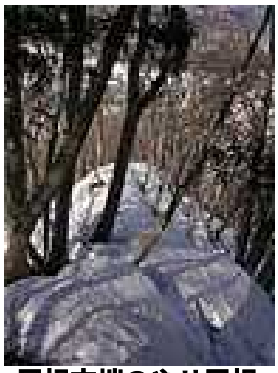
ＩＯさん

北東に伸びる尾根の下りは、広々としたブナ林に覆われ、斜度も適当とあって、とても楽しい滑降がしばらく続いた。途中 1550m 辺りと 1439m 高点への軽い登りがあったが、たいしたことはなかった。天気が良いので迷うこともない。ガスっている場合は、途中で尾根が二つに分かれるので、大川方面に降りるには左側の尾根を進まなければならない。この辺りは斜度もなく雪面台地になっていた。滑りやすい楽しいバーンはこれから先も続いた。

しかし、尾根も末端近くなると、徐々に細くなり、雪もところどころ切れてきた。それでも何とか雪を選んで慎重に滑り降りて行くと、左手眼下に大きな堰堤が見えた。そして、そのすぐ下流には橋らしきものが見えた。そこまで行くには、尾根を外れ大川に向けて急下降しなければならない。かなり急傾斜であるが、幸い雪が繋がっていたので、雪崩跡を避け、堰堤下の橋のところまでうまく滑り降りることができた。満足、満足！！

右岸に降り立ち、すっかり雪のなくなった橋を、板を担いで通過、その後、再び板を付けて、スキー場へと向かった。少しの登りを経て林道に出ると山小屋があり、その横を滑って行く。右手に「五竜かたくり苑」の看板を見て、スキーを漕ぎ、この先の流水溝に付けられた橋を渡ってゲレンデに戻った。最後は腐った雪のゲレンデを滑り、ゴンドラ乗り場に到着した。こうして充実した楽しいスキーツアーの一日が終わった。

楽しいブナ林の中の滑降


尾根末端のやせ尾根

大川を渡る